

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077500132		
法人名	有限会社 ひがし		
事業所名	グループホーム三春		
所在地	うきは市浮羽町三春1982-1		
自己評価作成日	平成27年9月25日	評価結果確定日	平成27年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町 1 - 6 - 1 6 TEL:092-589-5680 HP: http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成27年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

家庭的な雰囲気の中で、家族のような介護をおこなっている。ご家族との連携も密に行いホームでのケアにご協力を頂き、入居者も安心していただけるグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を田畑に囲まれ、見晴らしのよいロケーションから、遠方には耳納連山も臨める自然あふれた環境下に「グループホーム三春」はある。地域に密着した密接な関係を築き、認知症の重くなった方でも住み慣れた地域で暮らし続けられることを目指しており、自分の家のように過ごしてもらえるように職員は「ただいま」と言って出勤し、「行ってきます」と退勤する。笑顔を引き出す介護を心掛け、入浴や清拭も毎日行い、更衣もまめに取り換えることで清潔で健康的な生活を送ってもらっており、12年前の開設時から居る方や、100歳を超える方も2名いて元気に過ごされている。毎日のリハビリ体操や、カラオケ、外出などで刺激ももってもらい、笑顔で過ごせることを大事に、調査時も笑顔と明るさの絶えない雰囲気でも過ごされていた。今後も笑顔を大事に、地域に根付いた事業所としての活躍が期待される事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時や定例会の時に唱和確認し理念を共有している。	開設当初に代表が作った理念があり、事務所、リビング内に掲示されている。数年前から朝と定例会時の唱和をはじめ、職員にも十分共有されている。定例会時には運営方針も唱和し、理念・方針に基づいて日々のケアの振り返りも行い、年度初めには目標も立てて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	三春便りを地域の方々へ配る。又小学生との交流会・中学生の職場体験学習も受け入れている。祭りには地域の方々にも声をかけ参加していただいている。	敷地内にある多目的ホールは行事利用のほか、地域にも開放し、毎週のカラオケ教室などにも利用されている。クリスマス会、敬老会、秋祭りなどは地域の方も招き、ボランティアや民生委員にも手伝ってもらっている。お祭りはポスティングや回覧板、看板などで周知し、提携医にも来てもらって健康相談会も開いた。日常的に差し入れなど頂くこともある。	今後地域と取り組む徘徊模擬訓練に民生委員の協力をもらうようにしているが、認知症の啓蒙活動として、キャラバンメイト活動など、地域に向けた情報発信などが行われることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベント等あるときは、地域の方々に参加してもらっている。年に1度近所の公民館主催の小学生お泊り学習での入浴場所としての施設を提供し交流の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議を行っている。市役所福祉課の職員・ご家族・民生員からの意見を取りいれ運営に反映している。	市職員、民生委員、家族などが参加し、家族には全員に案内し、以前は入居者が参加することもあった。会議では事業報告、ヒヤリハット報告を行い、地域行事に関しての協力要請や情報提供を頂くこともある。議事録は玄関で閲覧公開しており、発行する事業所だよりに掲載して報告もしている。会議の意見から防災への備えとして、夜間想定など具体的な訓練を行ったり、クリスマス会との同日開催なども検討している。	以前は利用者も一緒に参加していたとのことで、今後も可能であれば、家族との同席参加など検討されてはどうだろうか。また、行政とは別に、地域包括にも参加案内や呼びかけがなされることにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の方が運営推進会議への参加して下さったり、連絡事項はメールや電話で行っている。	うきは市の事業所連絡会が2か月ごとに開かれ、市職員も参加している。運営推進会議への参加も毎回案内しており、年1回程度は参加される。質問ごとなどあった時は窓口まで行って相談し、介護申請時も窓口で直接行う。主に施設長が調整を担当し、地域包括からは入居紹介を頂く事があった。	行政とも関わりを密接にしていけるために、運営推進会議の議事録の報告やなどを使って、訪問機会を増やす取り組みを検討されてはどうだろうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	うきは市のグループホーム部会での研修に積極的に参加をしている。虐待がないように声掛け注意を払い虐待防止に努めている。	年に1回は地域のグループホーム部会による、身体拘束の研修があり、行ける職員は参加している。玄関の施錠もなく、自由に外出ができ、センサーで管理している。数年前位に離設もあったが、今はなくなった。3年前から市の徘徊模擬訓練も始まり、地域との協力体制を作っており、有事の際は連絡が入るようにしている。全入居者の写真を毎朝撮って記録に残し、万が一の離設時に服装を説明できるようにしている。	職員も拘束に関して、一般的な理解をもっているが、外部研修の参加時などに、内部での報告や、共有を徹底することで、事業所全体での取り組みが推進されることに今後は期待したい。

H27自己・外部評価表(GH三春

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に積極的に参加し虐待がないように努め提いる。また管理者はスタッフの言葉使いや言動にも注意を払っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に積極的に参加をしている。また成年後見制度のリーフレットをグループホームにおいて、必要だろうと思われるご家族には促すようにしている。	現状で制度の活用はないが、以前は成年後見制度の利用があった。今後活用が検討される入居者もあり、懸案事項として対応している。外部の専門家もあり、必要な時には相談して協力体制を作っている。主に管理者が対応し、外部研修には毎年参加している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項は読み合わせをして、十分に説明を行っている。ご納得のうえでのサインをしていただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情受付窓口があることを説明している。家族からの意見があれば積極的に取り入れるようにしている。	面会時や電話などで、意見や要望、苦情などを聞くことがあり、頂いた際には皆で話し合って報告も行っている。お便りを2か月ごとに発行しており、日頃の状況や、運営推進会議での内容も伝えている。面会のほか、家族参加行事も多く、家族が事業所を訪れる機会も多い。	日頃上がってこない意見を引き出す機会として、家族会を敬老会と同日などに行って、多数が訪れる話し合いの場として検討されてみてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会での意見や半年に1度職員の面談を行い意見などを聞いている。	半年ごとに、管理者との面談による個別の目標設定がなされ、月1回は原則全員参加のミーティングを行い、月の予定や、入居者の情報共有、通達、行事計画に関して話されている。長時間に及ぶこともあり、ヒヤリハットの対応に、マニュアル作成や、ケアの改善などにも取り組んだ。日頃も意見は上げやすく、反映もなされ、提案から、肘上げ車いすやスライディングボードの導入にもつながった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格や本人の希望転勤があるなしによって、職位を決めて、給料の水準を段階的に上がっていきけるようにしている。また資格取得には積極的に進んでもらっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	人権そ尊重は十分におこない働きやすい環境整備を整えるようにしている。権利と義務を十分に果たせるような職場である。	男女で、18～60歳代まで幅広い年代の職員がおり、無資格者の採用後、法人の支援による資格取得も奨励している。各種の委員会活動も行い、生活、排泄、広報などそれぞれが適性を見ながら役割をもって業務に取り組んでいる。可能な職員は系列での異動も行いながらスキルアップに努め、事業所からの研修案内、参加も可能である。休憩時間の確保や、休憩室は適宜確保されている。	職員のレベルを上げて、ケアの均質化を図っていくために、年間計画などで定めた定期的な研修の参加や、内部研修、勉強会の実施などが継続して行われていくことが期待される。

H27自己・外部評価表(GH三春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	グループホーム部会で年に1度人権学習の研修を採り入れそれに参加できるように努めている。	毎年のグループホーム部会の中で行われる人権研修に、参加できる職員は原則的に参加している。差別に関する参考書籍が配備されているが、最近活用はなかった。認知症高齢者の理解や、尊厳の確保にも努め、施設長は、毎年、採用に関しての人権研修に参加している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修に出席できるようにシフトの調整を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の研修の中に親睦会が含まれており、それに積極的に参加するように促している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族へのアセスメントを元にコミュニケーションを図り、職員間の情報を共有しながらホームでの生活が少しでも安心できるように心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との面談を入居前に行うが、ご家族との話をさせてもらい、その後の面会でもこまっていることを尋ね、ケアプランに反映している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前や1か月経過ごとにケアプランを立て直しをするが、そのたびにご家族や本人から聞き取りをし、それに応じたプランをてケアを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の身体状況に応じ出来る事は参加してもらいできないことを支えるように心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にしながらホームでの催事に参加をしていただけるように促すとともに、同じ思いで支えていただけるように心がけている。		

H27自己・外部評価表(GH三春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	苑内の生活が主になってきており、家族との外出さえ出来なくなっている入居者が大半である、地域への参加を考慮しつつ可能な限りの外出支援をしている。	家族に協力してもらって、一時帰宅や外泊しており、墓参りに行った方もいた。車いす対応の車両もあり、外出時にはリスク管理をした上で、家族と外出することもある。以前からの習い事で、カラオケに継続していく方がいたり、職員介助で、個別ケアを行い馴染みの美容室を利用されることもあった。友人や知人の来訪もあり、比較的、全体の利用者が外部との関わりを継続している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性理解度状態により、席順を考える等スタッフが見守り対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援がないよう対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々の思い希望をできる限りくみとり家族とも話し合い本人の無理にならないようプランの作成に努めている。	独自のアセスメントシートがあり、半年から一年で見直しており、主に各ユニットの計画作成担当者が受け持ち、ケアマネが管理している。家族とも相談し、項目ごとに現状を確認、ニーズを聞き取り、職員全員から現場の意見を参考にしてアセスメントしている。意思疎通が難しい方も、日頃の様子や表情を見たり、家族から聞いて意向の把握に努めている。	認知症が重度の方や、疎通が難しい方へのアプローチに関して、センター方式の検討や様々な方法を考えられてみてはどうだろうか。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族へのアセスメントを元に入居前の生活を継続できるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録業務日誌当で現状の把握に努め、必要に応じてケア皆具を開きプランの見直しに努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランチェック表を通してケアのあり方を見直し、必要に応じてケアカンファを開き現状に適したケアができるように努めている。	職員は担当制で1、2名を受け持ち、毎月のモニタリングと、家族への報告を行っている。3か月のモニタリングは各ユニットの計画作成担当者が行い、毎月のケア会議によってその月の見直し該当者のことを全員で話し合っている。半年から一年で担当者会議を開催し、家族にも参加してもらっている。プラン目標の実施を毎日管理することで、プランの共有にもつながっている。	プランの見直し時に、医師や看護師など専門職の意見照会したり、担当者会議のご案内をすることや、議事録に意見の記載を行うことで、チームケアでの取り組みがさらに深まっていくことにも期待したい。

H27自己・外部評価表(GH三春

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に記録し毎日業務に入る前に目を通すようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じて、2人での介助を行うようにしたり、と柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体の皆さんへの活動を積極的に取り入れて、それを楽しんでもらえるようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師や看護師には必要とされる情報を提供し連携を図っている。専門医の受信が必要な場合はご家族の協力のもと受診したり、また送迎をしたりしている。	以前からのかかりつけ医も希望により継続され、医師ごとに往診や通院介助で対応している。通院は基本は家族支援だが、事業所による支援も行い、提携医は2週に1回訪問診療がある。訪問看護も毎週来ており、健康管理がされている。随時家族とも情報共有しており、必要な方には情報提供シートも使って報告、連携をとっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算により週1看護師が訪問し入居者の状況をみております。情報が適切に伝わるように専門のノートに書き、それをみせるようにしております。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関への入院が多いため、常に情報のやり取りはしている。また担当医からの情報も伝えてもらうようにし、担当医の協力で早めに退院できるようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りまですることを伝え、多くの選択肢の中から三春での看取りを選んでくれた場合には、医師や看護師や家族とスタッフを何度も話し合いながら、看取りを行っている。	直近でお一人を看取り、ターミナルプランも作って対応した。指針も定めており、希望があればできる限りの支援を行っている。契約時に説明し、重度化の際には改めて医師立会いのもと同意を取っている。医師も24時間対応可能で、緊急時にも診療に来てもらっており、今後は夜勤者以外にも宿直当番の配置を始める予定である。ターミナルケアについての研修にも参加している。	

H27自己・外部評価表(GH三春

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2度、うきは市消防局から指導にきてもらい、救急救命の講習を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い有事の際にあわてることがないように努めている。又緊急通報装置を導入し地域の方にも協力をお願いしている。	年2回防災訓練を行い、うち1回は消防署に立ち会ってもらい、夜間想定訓練を基本にしている。直近の訓練では実際に夕刻に行い、リアリティを持たせた。緊急通報先に地域の方にも入ってもらい、非常時の協力を依頼している。昨年は運営推進会議と同日にも行い、地域の方の参加もあった。避難のしやすい平屋建てで、スプリンクラー、備蓄物などの防災設備も整えている。	地域の方との協力体制は作られているが、同敷地内にある施設との合同訓練も行うことで、さらに近隣関係を強化してはどうだろうか。また、新入職員が入った際にも随時、避難方法などに関しての指導がなされることも望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝申し送りの時に、三春の理念を唱和(人権の尊重をうたっている)常にスタッフ共通の思いとしている。又言葉使いはスタッフ同士注意しあうように努めている。	更衣や排せつ介助時のプライバシーへの配慮や、理念にある尊厳については日頃から指導している。2, 3年ほど前には接遇に関しての研修も行ったが、直近ではなかった。個人情報に関しても取り扱いに留意しており、写真利用に関しては契約時に口頭で同意を得ている。	トイレの配置上、排せつ介助時のプライバシーに関して難しい部分があるが、入居者のプライバシーのあり方や捉え方に関して、今一度職員間で話し合われることが期待される。また、接遇やモラル、マナーなどに関しての研修も定期的になされてはどうだろうか。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で常に入居者希望に添えるよう心かけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の大まかな流れは決まっているが、常に本人の思いを尊重するように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて理髪店に来ていただき、散髪してもらったり、行きつけの理髪店に家族が連れて行ったりしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー委員を中心に季節感のあるメニューを作り努めている。利用者の出来る事は一緒に手伝ってもらっている。又スタッフも一緒に食事をし、好み接触状況の把握に努めている。	地元の食材を使って、手作りで調理しており、道の駅やスーパーなどで購入して旬の物を提供している。入居者も調理や、買い物などできることを手伝ってもらっている。料理の品数も多く、食べたいものを聞いて、職員も同じ時間に同じものを一緒に食事しており、食事の完食率も高いという。誕生日や行事食などに箱膳にすることもあり、外食に出かけることもある。	

H27自己・外部評価表(GH三春

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来る限り水分は声かけして飲んでもらうにしている。食べやすい様に小さく切ったりロミをつけたりする。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日朝夕は口腔ケアをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子の方は声をかけ誘導している。自力で行ける人はトイレにいったらう。排泄の時間を把握するためにチェック表を作っている。スタッフが誘導しオムツ使用の方もトイレでできるようにしている。	毎日、ユニットごとに全員を管理し、あとから個人別の記録に転記している。定期的な誘導や排せつパターンの把握によって、スムーズな排泄につながった方もいる。毎月のケア会議や排せつ委員で話し合っ、それぞれに合ったパットなど、負担軽減のための提案も行っている。	転記漏れを防ぎ、期間的な記録の確認しやすさにつなげるために、排泄や水分摂取などをまとめて効率化、簡略化を検討されてはどうだろうか。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・肉・魚をかたよらないようにメニューに入れている。1日の食事野菜を多く摂取できるようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り毎日入浴してもらるようにしている。拒否がある場合にはスタッフを変えたりしているが、本人の意向を尊重するようにしている。	全員が毎日入浴しており、昼から夕方までで対応している。清拭や着替えも毎日行うことで清潔に保っている。拒まれても無理強いせず、タイミングを計って働きかけ、時間帯も固定せず柔軟な対応をしている。季節の行事浴を提供することもあり、お湯は適宜入れ替えてきれいになっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り、昼間はリビングで過ごしてもらい、よるはぐっすり眠ってもらえるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤者が翌日の薬訳をする鍵のかかる棚に保管している。説明書は個人のファイルにしまっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分で出来る事は、なるべくしてもらようにしている。天気がよければ散歩に行く。		

H27自己・外部評価表(GH三春

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には近くに散歩に行ったり、車で外出したりしている。またご家族との外出も自由にしている。	2年前からの取り組み改善項目として、全体での外出機会を増やした。気候のいい時期には毎月、外出行事として季節折々の花見などをユニット単位や全体で行う。個別でもドライブや買い物、周辺の散歩などを日常的に行い、車いすの方、意欲低下のある方もうまく働きかけて外出機会を持ってもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での管理能力が残っている場合は少額の金額を保持している方もいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された場合には電話をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の居室がわかるようにドアの前に名前を貼ったりトイレもわかるように矢印をつけている。居室から見えるように季節の花を植えている。	玄関から入り、中庭を囲む形で左右に各ユニットが配置される。周囲も開けており、窓も多いため日光がよく差し込み風通しもよく非常に明るい。リビングにつなげられたテーブルで全員で食事をしたり、小上がりの和室スペースで休まれたりと思い思いに過ごすことができる。季節の飾りなども飾られ、調査時は秋を感じさせる、ススキや柿を模した作品が彩を添えていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席をきめているが、トラブルがあった場合は変更している。定期的な席変えも行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自部屋のかざりつけはそれぞれ思い思いにやってもらっている。家族の写真や誕生日にみんなで書いた色紙を飾ったりしている。	居室は8畳ほどの広さで、和室もあるが、希望により洋室にもできる。布団で休む方もいるが、必要があれば介護ベッドも準備している。ベッドの配置も自由で、転倒リスクの高い方は畳にしたり、歩行器などを貸与したりと柔軟に対応している。表札は写真付きにしてあり、にぎやかな雰囲気は一花添えている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一目見てすぐわかるように居室やトイレに大きく書いている。		